

令和7年9月30日

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について【中学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本市立中学校生徒の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「全国学力・学習状況調査」について

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善（学力向上PDCA）サイクルを確立する。

2 調査期日・調査対象 令和7年4月17日（木） 第3学年

3 調査内容

（1）教科に関する調査

- ① 国語
- ② 数学
- ③ 理科



（2）質問調査

- ① 生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること
- ② 学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること

4 本市の参加状況

- （1）学校数 宇都宮市立中学校 25校（25校中）
- （2）生徒数 国語 3,787人 数学 3,793人 理科 3,782人

5 留意事項

（1）調査結果について

本調査は対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

（2）教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を分かりやすく示すために、教科全体及び分類・区分別の平均正答率、正答数度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 国語、数学については、「平均正答率」、「正答数の分布」について状況を記載した。理科については、「平均IRTスコア」、「IRTバンド分布」及び「公表問題の平均正答率」について状況を記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、分類・区分ごとに、良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを分類・区分ごとに記載した。

（3）質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び全国との比較において本市の特徴が見られる質問等を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の留意点、改善のポイントを併せて記載した。

1 中学校第3学年 国語

平均正答率

(%)

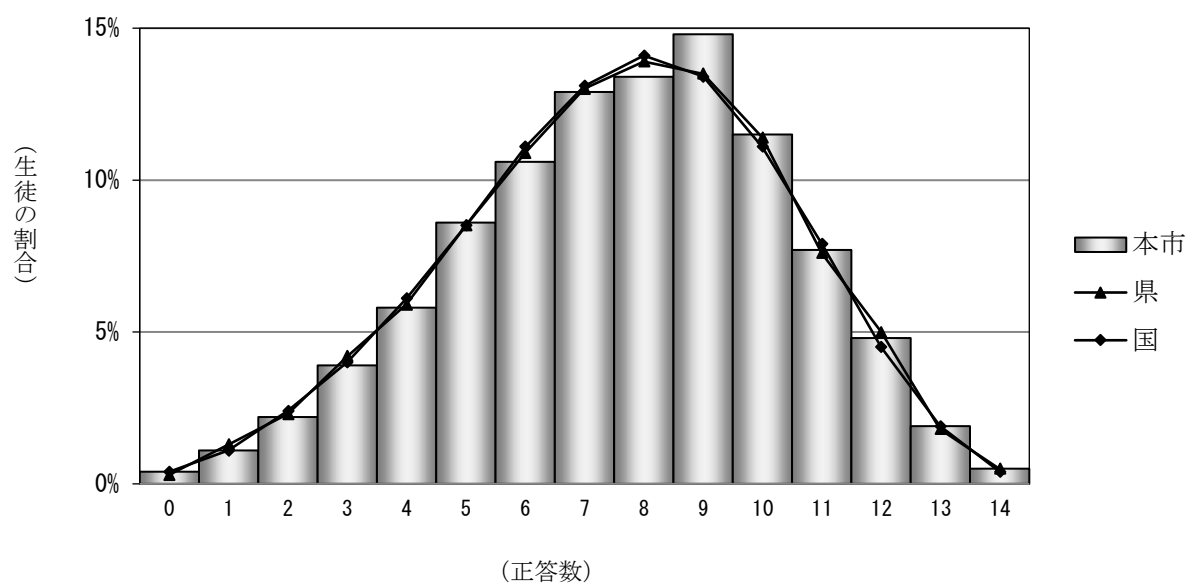
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a - b
国 語	54.7	54	54.3	0.4

分類・区分別平均正答率

(%)

分 類		区 分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 内容	知識 及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	51.1	48.9	48.1	3.0
		(2)情報の扱い方に関する事項				
		(3)我が国の言語文化に関する事項				
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	53.2	53.0	53.2	0.0
		B 書くこと	53.1	53.1	52.8	0.3
		C 読むこと	61.8	61.9	62.3	△0.5
評価の観点		知識・技能	51.1	48.9	48.1	3.0
		思考・判断・表現	55.3	55.3	55.3	0.0
		主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全国平均との差 3.0 ポイント)

- 言葉の意味として適切なものを選ぶ設問の正答率は 65.8%で、全国平均を 4.8 ポイント上回る。語彙を正しく理解することに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (全国平均との差 0.0 ポイント)

- 話し合いにおいて、「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選ぶ設問の正答率は 73.5%で、全国平均を 0.1 ポイント上回る。論理の展開に注意して、話の構成を工夫することに良好な状況が見られる。
- 発表の内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、自分の考えを書く設問の正答率は 23.1%で、全国平均を 0.1 ポイント下回る。自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。

書くこと (全国平均との差 0.3 ポイント)

- ちらしの中の情報について、示す位置を変更した意図を説明したものとして適切なものを選ぶ設問の正答率は 65.3%で、全国平均を 2.0 ポイント上回る。書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることに良好な状況が見られる。
- ちらしの読み手に向けて、イベントの工夫について伝える文章を書く設問の正答率は 30.2%で、全国平均を 0.8 ポイント下回る。自分の考えが伝わる文章になるように、資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして書くことに課題が見られる。

読むこと (全国平均との差 $\Delta 0.5$ ポイント)

- 物語の始めに問いかけが示されていることの効果の説明として適切なものを選ぶ設問の正答率は 78.9%で、全国平均を 1.1 ポイント下回る。表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題が見られる。

指導の工夫・改善

話すこと・聞くこと

回答類型からは、自分の考えは書けたものの、考えの根拠となる部分について適切に取り上げることができなかった生徒の割合は 22.2%であった。

自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫するためには、自分の考えを支える根拠が示されていることや、筋道の通った論理の展開となっていること、資料で示した図表などが自分の考えを補足したり、強調したりするものになっていることなどの要素が満たされている必要があり、その適切さの吟味について、話し手の立場からだけでなく聞き手の立場に立って考えさせるなど、指導を工夫することが重要である。

書くこと

実用的な文章を書く活動において、自分の考えが伝わるよう、根拠を明確にして書くためには、〔知識及び技能〕の「情報の扱い方に関する事項」との関連を図り、相手や目的に応じて伝えるべき事柄を選択したり再構築したりするなど、情報と情報とを適切に関係付けながら、考えを簡潔に分かりやすく書くことができるよう指導することが必要である。

そのため、実用的な文章を書く言語活動を設定する際には、他教科等の学習や学校のエデュケーション全体との関連を図り、実際に書いて伝えたり、読み手の反応を受け取ったりすることができるよう計画を工夫することが考えられ、書くために集めた情報や、伝え合う活動を通して得られた情報を整理したり、関係付けたりしながら文章を書く時間を設定するなど、生徒が主体的に活動に取り組めるよう指導することが重要である。

2 中学校第3学年 数学

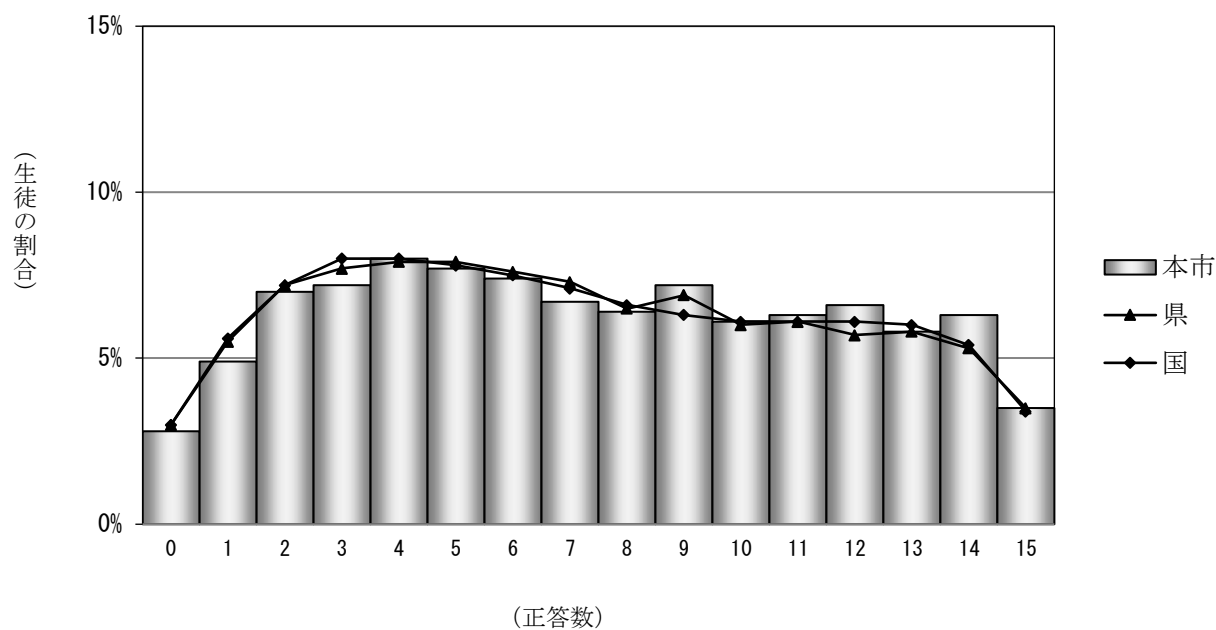
平均正答率 (％)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a－b
数 学	49.6	48	48.3	1.3

分類・区分別平均正答率 (％)

分 類	区 分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 領域	A 数と式	45.0	43.2	43.5	1.5
	B 図形	47.2	45.3	46.5	0.7
	C 関数	48.5	47.5	48.2	0.3
	D データの活用	61.6	60.8	58.6	3.0
評価の 観点	知識・技能	55.6	54.3	54.4	1.2
	思考・判断・表現	40.7	39.0	39.1	1.6
	主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と式 (全国平均との差 1.5 ポイント)

- 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する設問の平均正答率は48.3%であり、全国平均を3.1ポイント上回る。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することについて良好な状況が見られる。
- $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する設問の平均正答率は27.6%であり、全国平均を1.9ポイント上回るが、教科全体の中で最も低い。式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明することについて課題が見られる。

図形 (全国平均との差 0.7 ポイント)

- 平行四辺形の一組の対辺を同じ長さだけ延長したときにできる四角形が平行四辺形になることの証明を完成する設問の平均正答率は39.3%であり、全国平均を3.0ポイント上回る。統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することについて良好な状況が見られる。

関数 (全国平均との差 0.3 ポイント)

- A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離がわかるかを選ぶ設問の平均正答率は73.1%であり、全国平均を1.2ポイント上回る。事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることに良好な状況が見られる。
- A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する設問の平均正答率は37.7%であり、全国平均を0.3ポイント下回る。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。

データの活用 (全国平均との差 3.0 ポイント)

- ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める設問の平均正答率は51.2%であり、全国平均を8.7ポイント上回る。相対度数の意味を理解すること良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と式

文字を用いた式で数量の関係を捉え説明するためには、文字を用いた式を使って、ある事柄が成り立つことを説明する場面で、文字を用いて表現したり、式の意味を読み取ったり、計算したりする学習に総合的に取り組むことが重要である。そのために、偶数や奇数、ある数の倍数などの文字を用いた式での表し方などの知識・技能を定着させ、式の形によって表す意味が変わることについて指導することで、説明したい事柄に即して式を変形させることの必要性を感じさせることが大切である。

関数

関数の学習においては、表・式・グラフを用いて表すことのよさを実感し、相互に関連付けて理解できるようにすることが重要である。日常の事象の中には、問題を解決するために比例や反比例とみなして結論を得ることがあり、二つの数量の関係を表やグラフで表し、その関係を理想化、単純化することで未知の状況を予測できるようになることを理解させることが大切である。

3 中学校第3学年 理科

※ 中学理科はCBT（コンピュータを用いたテスト）で実施され，IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

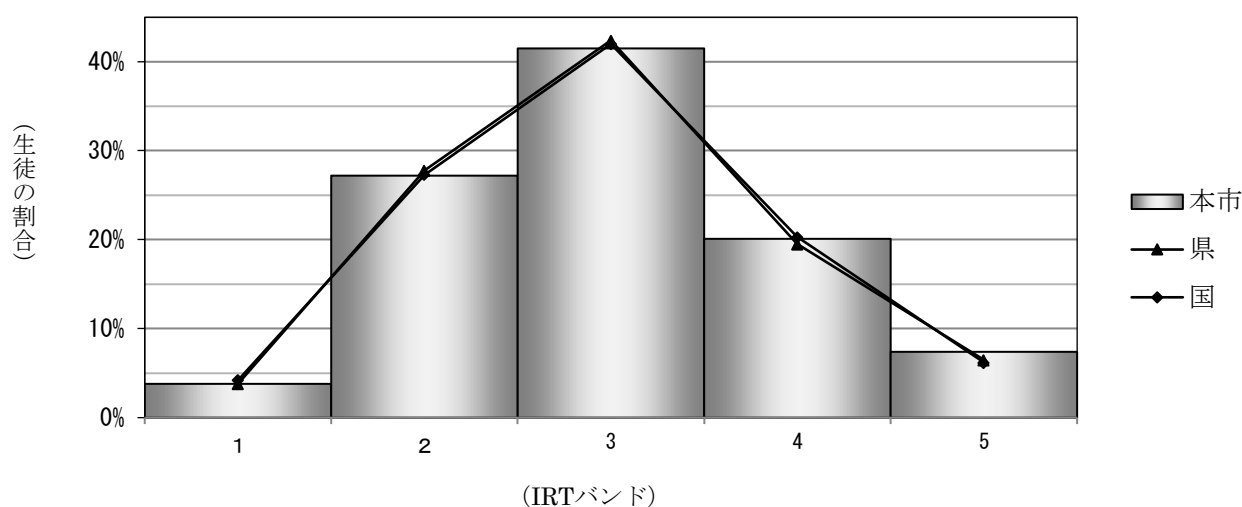
※ 公開問題22問（共通問題6問と実施日によって異なる問題16問）と非公開問題16問（生徒ごとに異なる問題）が出題されており，生徒一人が取り組んだ問題は，26問である。

平均IRTスコア

（スコア）

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a－b
理 科	507	504	503	4

IRTバンド分布



※ IRTバンドは，1～5の5段階で5が最も高い。

公開問題の平均正答率

（％）

分 類		区 分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 区分・ 領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	54.5	54.8	56.1	△1.6
		「粒子」を柱とする領域	62.2	61.4	61.7	0.5
	B区分	「生命」を柱とする領域	46.5	45.0	44.8	1.7
		「地球」を柱とする領域	36.7	36.4	37.3	△0.6
評価の観点		知識・技能	67.0	65.7	66.8	0.2
		思考・判断・表現	38.3	38.5	38.8	△0.5
		主体的に学習に取り組む態度				

※ 公開問題22問の調査結果を集計した値である。

傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域（全国平均との差 $\Delta 1.6$ ポイント）

- 考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する設問の正答率は 11.1% で、教科全体の中で最も低い。音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題が見られる。

「粒子」を柱とする領域（全国平均との差 0.5 ポイント）

- 水道水と精製水に関する探究の過程における振り返りを記述する設問の正答率は 80.7% で、全国平均を 1.3 ポイント上回る。科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することに良好な状況が見られる。
- プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断する設問の正答率は 57.2% で、全国平均を 6.8 ポイント上回る。ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈することに良好な状況が見られる。

「生命」を柱とする領域（全国平均との差 1.7 ポイント）

- 消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する設問の正答率は 57.4% で、全国平均を 5.8 ポイント上回る。これまで学習した理科の知識及び技能を基に、分解の概念の理解に良好な状況が見られる。

「地球」を柱とする領域（全国平均との差 $\Delta 0.6$ ポイント）

- クリーンルームの他に気圧を利用している身近な事象を選択する設問の正答率は 54.4% で、全国平均を 3.7 ポイント下回る。気圧の概念の理解に課題が見られる。

指導の工夫・改善

「エネルギー」を柱とする領域

考察をより確かなものにするために、適切な実験の設定とその結果の予測ができるようになるには、何を明らかにしたいのか、仮説はどうなっているのかをはっきりさせることで、必要なデータや検証すべきポイントを明確にすることが必要である。また、音の性質においては、音の高さや大きさと発音体の振動の仕方を分析・解釈して、規則性を見いだす活動の充実を図るようにすることが大切である。

「地球」を柱とする領域

大気圧については、観察、実験を通してその結果を空気の重さと関連付けて理解させることが大切である。その際、空気中にある物体にはあらゆる向きから圧力が働くことにも触れる。例えば、空き缶を大気圧による力でへこませる実験などを行い、空気の圧力の存在を理解させる。また、圧力容器などに詰まった空気を大気中に放出して、その前後の質量を測定し、空気には重さがあることを見いださせ、空気の重さと大気圧を関連付けて捉えさせていくことが大切である。

4 中学校質問調査

【生徒質問調査の状況】調査結果（全 72 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と 5 ポイント以上差があり本市生徒の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ ランダム方式で実施された項目は集計から除外されている。
- ・ 肯定的な回答の割合は「当てはまる（している）」、「どちらかといえば当てはまる（している）」等と回答した割合の合計である。（＊それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	1, 2 年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	81.7%	4.0
2	1, 2 年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	75.8%	5.2
3	1, 2 年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	70.4%	7.4
4	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	87.4%	7.9
5	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	82.9%	5.6
6	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ＊ 1 時間以上	68.6%	7.0
7	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	74.7%	11.4
8	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか	89.7%	6.1
9	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	85.9%	9.3
10	自分には、よいところがあると思いますか	88.2%	2.0
11	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.6%	1.0
12	将来の夢や目標を持っていますか	70.9%	3.4
13	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	94.9%	2.7
14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	78.2%	5.0
15	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	81.2%	2.0
16	地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか	79.3%	4.0

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業や学習について (No. 1～6)

- No. 1, 2, 4 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 4.0 ポイント, 5.2 ポイント, 7.9 ポイント上回っている。各学校においては、生徒が課題を見出し、見通しをもって学習活動に取り組めるよう工夫したり、振り返りにおいて学びを次に生かしたりすることができるよう、主体的な学びの視点からの授業改善が進められているものと考えられる。
- No. 3, 5 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 7.4 ポイント, 5.6 ポイント上回っている。各学校においては、自分の考えを資料や文章にまとめて工夫して発表する学習を推進するとともに、学級活動での話し合いを通して、意思決定をする活動を充実させるなど、対話的な学びの視点からの授業改善が進められているものと考えられる。
- No. 6 の肯定的回答の割合は、全国平均より 7 ポイント高いが、7 割以下である。家庭学習を充実させるために、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて取り組むことができるよう具体例を示すなどの手立てが必要である。

ICT 機器を活用した学習状況について (No. 7～9)

- No. 7～9 の肯定的回答の割合は、それぞれ、全国平均より 11.4 ポイント, 6.1 ポイント, 9.3 ポイント上回っている。1 人 1 台端末の活用を踏まえた授業の工夫により、生徒が情報を整理することや文章を作成して自分の考えを発表することなどに有効に活用できることを実感しながら学習活動に取り組んでいると考えられる。各学校においては、1 人 1 台端末の活用の推進を継続していく必要がある。

自分自身のことについて (No.10～12)

- No.10～12 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を 2.0 ポイント, 3.4 ポイント上回っている。No. 11 の肯定的回答は、9 割を超えている。各学校においては、各学校においては、特色ある教育活動や授業の工夫改善が進められている中で、様々な活動や経験を通して、自己肯定感や自己有用感が育成されており、将来の夢や目標をもって前向きに生活しているものと考えられる。

周囲とのかかわりについて (No.13～16)

- No.13, 14 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を 2.7 ポイント, 5.0 ポイント上回っている。各学校においては、生徒のよさをみとめるとともに、安心感をもって学校生活が送れるよう、教職員が日常的に生徒とかかわりながら生徒理解を深め、信頼関係を構築することで、効果的に教育活動が進められているものと考えられる。
- No. 16 の肯定的回答の割合は、全国平均を 4.0 ポイント上回っている。各学校においては、地域未来会議の活動などを通して、地域の方々と話し合いなどから、自分たちができる活動により参画しようとする意識が高まっているものと考えられる。

【学校質問調査の状況】

調査結果（全 84 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と 5 ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「行った」、「どちらかといえば行った」等と回答した割合の合計である。
（＊それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	100%	5.6
2	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	96.0%	13.2
3	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	100%	9.2
4	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	100%	5.0
5	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	100%	8.5
6	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	92.0%	4.5
7	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	100%	4.7
8	令和 6 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100%	6.0
9	令和 6 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	100%	16.6
10	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	100%	28.3
11	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか ＊ 5 日以上	100%	92.0
12	地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか	100%	20.5
13	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか ＊ 週 3 回以上	100%	5.5
14	生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	100%	12.8
15	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度活用していますか ＊ 週 3 回以上	92.0%	13.7

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業中の指導や生徒の学習状況について (No. 1～5)

- No. 1 の肯定的回答の割合は 100% であり、全国平均より 5.6 ポイント上回っている。各学校においては、教育目標の実現に向けた取組が行われる中で、生徒に必要な資質・能力を育成するための指導が、計画的・組織的に推進されているものと考えられる。
- No. 3, 4 の肯定的な回答の割合は、それぞれ全国平均より 9.2 ポイント、5 ポイント上回っている。各学校においては、互いの考えを伝えたり、異なる視点から考えたりするなど、協働的に学ぶことができるよう対話的な視点から学習課題を工夫するなど指導改善を図っているものと考えられる。
- No. 2, 5 の肯定的な回答の割合は、それぞれ全国平均より 13.2 ポイント、8.5 ポイント上回っている。各学校においては、探究的な学習の中で、生徒が自ら進んで学習に取り組みながら、知識や技能を身に付けるとともに、課題設定能力や情報収集能力などを高めることができるよう、学習課題や学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、学習指導の充実が図られているものと考えられる。

研修など教職員の資質向上に関する状況について (No. 6, 7)

- No. 7 の肯定的回答の割合は、全国平均より 4.7 ポイント上回る。各学校において、授業力や学級経営力等の資質・能力の向上を目指した取組が推進されているものと考えられる。

学力・学習状況調査結果の活用について (No. 8, 9)

- No. 8, 9 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 6.0 ポイント、16.6 ポイント上回っている。自校の調査結果について分析を進め、学校全体で成果や課題を共有するとともに、保護者等への公表にも取り組むなど、教育活動のさらなる充実のために活用する取組が推進されているものと考えられる。

本市の推進する取組等について (No. 10～15)

- No. 10 の肯定的回答の割合は、全国平均より 28.3 ポイント高く、上回り方が大きい。小・中学校が連携を図り、義務教育 9 年間を見通した系統的な指導による確かな学力を育む教育が推進されているものと考えられる。
- No. 11 の肯定的回答の割合は、全国平均より 9.2 ポイント高く、5 日間連続した職場体験を通してキャリア教育を推進している成果が表れている。
- No. 12 の肯定的回答の割合は、全国平均より 20.5 ポイント上回っている。各学校においては、魅力ある学校づくり地域協議会との連携強化を図るなど、保護者や地域の方々と連携・協働した学校づくりが推進されているものと考えられる。
- No. 13～15 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 5.5 ポイント、12.8 ポイント、13.7 ポイント上回っている。各学校においては、1 人 1 台端末を効果的に活用することができるよう、学習活動の充実に向けた指導が推進するとともに、家庭と連携しながら ICT を活用していると考えられる。

【生徒質問調査と教科の正答率のクロス集計の状況】

- ・ 学力層を上位から順に 25%ずつ、4 層（A－D 層）に分け、各層の肯定的な回答の割合を基に意識と平均正答率との相関を分析している。
- ・ A－D 層間の開きの大きい質問は、正答率の高い生徒ほど、肯定的に回答している傾向が見られる質問であり、平均正答率との関係があるものと考えられる。

＜A－D 層の差が 10 ポイント以上のものから抜粋＞

No.	質問の内容	宇都宮市	
		A－D 層の差	肯定的な回答割合
1	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※2 時間以上	27.7	41.6%
2	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	26.7	75.2%
3	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	24.8	63.4%
4	1，2 年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	23.9	81.7%
5	1，2 年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	22.8	70.3%
6	1，2 年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	20.9	75.7%
7	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	19.4	80.1%
8	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思えますか	19.1	86.0%
9	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思えますか	18.1	74.6%
10	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	17.6	77.0%
11	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	17.2	87.5%
12	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	14.6	86.4%
13	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか	14.4	72.8%
14	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか	12.6	78.2%

傾向と考察及び指導の留意点

- 正答率・スコアが高い生徒の方が、以下の点について肯定的に回答している傾向が見られる。
- 指導の留意点等は、「➡」以下に示した。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について

- ・ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- ・ 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている。

- ➡ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える生徒ほど、正答率・スコアが高い。課題の解決に向けて、知識・技能を生かし、自分の考えをまとめ、効果的に伝えるなど思考・判断・表現の過程を重視し、生徒の資質・能力を育成することが大切である。

主体的な学習の調整について

- ・ 学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。
- ・ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている。
- ・ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。

- ➡ 生徒が見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返って次につなげ、主体的に学習に取り組んでいる生徒の方が、正答率が高い。単元を通して、既習事項やこれまでの学び方を用いて課題解決の見通しをもたせる場面や、学んだことを実感し、次の学習や実生活に生かせるように振り返る場면을計画的に実施することが必要である。

I C Tの活用について

- ・ ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成している。
- ・ ICT 機器を使って情報を整理（図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）している。
- ・ 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている。
- ・ 話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている。

- ➡ I C T機器を活用することができると考えている生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い。また、1人1台端末を有効に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現のために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進していく。

各教科の見方・考え方を働かせることについて

- ・ 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている。
- ・ 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。
- ・ 理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っています。

- ➡ 教科等の物事を捉える視点や考え方、思考の仕方を意識させながら、資質・能力を身に付けさせることができるよう、教材や課題設定、発問等により意図的に働きかけをするなど、各教科等の特質を踏まえた上での指導を重ねることが重要である。